

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870102914
法人名	特定非営利活動法人グループホームしいのみ
事業所名	グループホーム紫竹庵
所在地	松山市山越2丁目11番35号
自己評価作成日	平成22年9月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年10月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

民家改築型のグループホームなので、建物が周辺の環境に溶け込んでおり、周辺住民やご家族様が訪ねて来易い雰囲気である。利用者様や職員が外出から帰ってきても、談話室から「お帰りなさい」の声が聞こえ、とてもアットホーム的である。どの居室からも庭や畑が見え、静かで過ごし易い。職員はバタバタと業務をするのではなく、家でゆったりと時間が流れていくような施設的でないケアを常に心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所内では、できる限り車いすを使わず、職員が手を引いたり、ご本人が柱や椅子、手すりを持って移動できるように支援されている。「靴がなくなるといけない」と居室に靴をしまう方もあるが「ご本人の安心」を大切に見守ってもらえる。調査訪問時の昼食後、職員は利用者へ「お天気もいいし、今日は、お昼から何をしましょうか」と相談されて、散歩に行くことを決められたようで、出かけていく様子がうかがえた。
管理者は「あまり食欲がない日もあれば、食欲のある日もある」という考えのもと、ご自分の分は、ご自分で食べた量、食べれそうな量のご飯をよそってもらうようにされていた。調査訪問時も、利用者個々が好きな量のご飯とカレーをよそい、ご自分でテーブルまで運んでおられる様子がうかがえた。昼食の食量量が少なかった方には、おやつを多くされたり、おやつが遅くなった日は、夕食の時間を少し遅らせる等して、食事時間等もその日の状態や様子に合わせておられる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 		<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム紫竹庵

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

川井 洋子

評価完了日

2010 年 9 月 8 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 談話室の入口に理念を掲示し、この理念にもとずいて利用者の要望に添えるよう努めている。2カ月に一度地域の方を招き、運営推進会議を開いたり、地域の行事に参加している。	
			(外部評価) 事業所は「より楽しく暮らせるよう私たちは努力します」という理念を掲げ、居間に掲示されていた。管理者は「利用者は私達の鏡であり、職員も楽しくないと利用者にはいいケアはできない」と考え、元気で笑い声が聞こえるホーム作りに取り組んでおられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常の散歩、職員と利用者が行うゴミ出し、表や道路の掃き掃除などを通して地域に溶け込み、あいさつを交わすことによって、地域の一員として交流している。	
			(外部評価) 職員は、日々地域の方と挨拶を交わすようにされており、職員が利用者と一緒に散歩することで、ホームの利用者であることを知っていただけるよう取り組まれている。地域の敬老会に出かけた際、99歳の利用者は、みなの前に出て地域の方とともに祝っていただいた。高校生・大学生・専門学校生のボランティアの受け入れをされており、一緒に食事の準備や居室の掃除をしてくださり、利用者は、若い人が来ることをとても喜ばれ「張り切って動かれたり、明るい笑顔も多く見られる」ようである。秋祭りに神輿を見学したり、子ども達に配るお菓子も用意して楽しみにされていた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 日常の散歩、職員と利用者が行うゴミ出し、表や道路の掃き掃除などを通して地域に溶け込み、あいさつを交わすことによって、地域の一員として交流している。8月の運営推進会議では認知症についての勉強会を行った。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 回を積み重ねるごとに、民生委員や近所の方のご理解、率直なご意見や助言をいただき、今後のよりよいサービスにつなげていけるよう努力している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、町内会長や前会長・隣の地区の町内会長も参加してくださっている。会議と合わせて避難訓練を行われたり、又、区長の方から「認知症や介護のことについて教えてほしい」との要望もあり「認知症の人と家族の会」の方に講師をお願いして、地域の方達も誘い、公民館で「認知症の勉強会」を開催された。参加いただいた方からは「とても勉強になった」という感想をいただいた。</p>	<p>ご家族に、会議の案内や議事録等も送付されているが、ご家族が会議に参加されることは少ないようである。事業所を利用する立場であるご家族の意見はとても大切であり、ご家族が参加しやすいような会議の工夫についても考えていかれてほしい。又、会議を事業所のサービスの向上に活かしていけるような議題の工夫も重ねていかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に出席いただいたり、相談や助言を頂けるような協力関係が築かれている。市社協からのご依頼により介護相談員の受け入れを行っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時には、松山市保健所から理学療法士の方を招き「手軽にできる筋力トレーニング」の講習会を行われた。事業所では、介護相談員の受け入れをされており、相談員の方は利用者の居室で、ご本人とお話をしながら「こんな足袋がほしい」というような希望や、又、「ミキサー食や刻み食は好きではない」等、暮らしの思いや希望等を聞き取ってくださっている。</p>	<p></p>
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日々のケアの中で、何が身体拘束になるのか常に会議や話し合いを行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 職員会議時等に身体拘束、虐待について勉強会が行われたり、管理者は、日々のケアの中で、職員の利用者への言葉かけや対応についてその都度、問いかけながらアドバイスをされている。転倒を心配されるご家族から、ベッド柵の使用の要望があり、同意書を取り、柵を使用しておられたこともあるが「経緯」や利用者の状態を観察しながら「柵を減らす」よう取り組まれた。</p>	<p></p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常日頃の何げない言動も虐待につながりかねないという気持ちを忘れず、職員間においても学びあう機会を持ちながら防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 同一法人事業所において成年後見制度を使っている方が入所されたため、これから当ホームでも職員間で学ぶ機会を持ちたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 書面以外でも電話や訪問で話し合いの機会を回数重ね、理解と納得をしていただけるよう努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来所された時、十分な対応が出来なかったときは、管理者が必ず手紙や電話で意見・要望をお伺いし、運営に反映するよう努めている。 (外部評価) 毎月、利用者一人ひとりの表情がよく分かる写真を選び、管理者が「今月のご本人の様子」を手書きして、ご家族に送付されている。お送りした写真を楽しみに綴じておられるご家族もあるようだ。ご家族から「誰に話していいのかわからない」という意見があり、ご家族との対応は、管理者が行うことに決めておられた。	さらに、ご家族の知りたい情報の把握に努められ、事業所全体の取り組み等もご家族に知ってもらえるよう、情報提供を工夫していかれてはどうだろうか。職員の紹介や事業所全体で力を入れて取り組んでいること等を知りたいようなご家族もあるのではないだろうか。ご家族に事業所のことについて関心を持っていただき、運営推進会議に参加いただく等、ご意見や感想をうかがう機会作りにつなげていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 利用者の精神状態、身体状態に合わせて職員の意見やアイデアを取り入れ、早出/遅出のシフトの取り組みをしたり、休憩時間が確保でき気持ちにゆとりをもった介護が実践できるよう努力している。	
			(外部評価) 職員は、ケア等について気付いたことや意見があれば、その都度、管理者に相談して、話し合いながら決めておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 休み希望を出来る限り聞き、日勤夜勤のシフトに無理のないよう考慮し、やりがいを持って働けるよう、また職員同士が何でも相談できる職場環境になるよう努めている。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修は積極的に参加してもらい、個々の能力や努力に応じた資格へのチャレンジなど、後押しが出来るよう努めている。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) デイサービスをしているため他事業所との交流があり、勉強会や行事のご案内もいただいている。9月にはグループホーム職員相互研修を行った。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ケアプランをたてる第1段階として、その方の過去・現在・生活スタイルなどを極力把握し、安心を得るために信頼関係を築くことに努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	(自己評価)	<p>家庭訪問をしたり、ホームに来所されたときに、不安や心配事についてしっかり話をお聞きし、要望などを真摯に受け止められるよう努めている。</p>
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	(自己評価)	<p>すべての状況を把握するとともに、今の状況を見極めご本人とご家族に何が必要か、総合的に対応できるように努めている。</p>
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>現在よりも過去の事をよく覚えておられるので、昔の話をお聞きし、その方の立場に立って親子になったり、嫁姑の関係になったりして、暮らしをとにもする関係が築かれている。</p>
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>ご家族と一緒に病院受診をしたり、電話や月報を送り様子をお知らせしたり、ご家族からホームへ電話があった時は御本人に代わりお話してもらったりしている。</p>
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	(自己評価)	<p>昔の大家さんが訪ねてくれたり、選挙に連れて行って下さったりして、いまでも交流をされておられる方がいる。</p>
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の話には職員が割り込むことのないよう配慮し、共通の話題を提供したり、トラブルになりそうなどときには見守り、時には間に入って支えるように努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院された方には職員からお見舞いの色紙を届け、管理者がお見舞いに伺い、今後の支援について家族の不安を少しでも軽減できるようにしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で、個々の希望・意向を把握し、添えるものから解決していく。困難な事柄は、ご家族の意見をうかがいながら本人にとって最良となるように努めている。 (外部評価) 職員は、夜間時、利用者と一緒にゆっくりお話しができることもあり、お話の中で聞けたご本人の言葉をそのまま記録に残して共有されている。ご家族から得た情報も、申し送り共有されている。あまりお話しをされない利用者は、少しの表情や、動きからも思いを汲み取ることに努めておられる。意思表示をあまりされない方に、紙とペンをお渡しすると、書いてくださることもある。センター方式の様式を用いて、情報を集めて支援につなげられるよう努めておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人やご家族から十分な話をお伺いするとともに、夜勤帯など時間の許す時にはゆっくり関わりを持ちながら把握できるよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 記録日誌には御本人の言葉をそのまま記録し、朝と夕の申し送り時には職員間で把握できるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月例会議でご家族の意見を持ち寄り、職員全員で現状を話し合い、御本人にとって一番よいと思われる介護計画を作成している。	
			(外部評価) ご家族に介護計画の見直し時期であることを伝えて、利用者ご本人の暮らしやケアについての意見や要望を聞き取っておられる。職員会議で、ご本人の意向や職員が気付いたことを話し合い、管理者が「利用者が希望が持てるような計画の作成」に心がけ、作成されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 申し送り時に気づきを話し合い、個別記録のチェック欄に記録し、職員間で共有しながら必要な場合には介護計画の見直しにも活かしている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 御本人・ご家族からの要望を大切に、その日、その時に必要と思われる支援が出来るように取り組んでいる。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域で開催されるイベントには率先して参加したり、近くのカラオケボックスや公園へ出かけ、顔なじみの関係が築いていけるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時に主治医の希望をお伺いし、過去に通院してい た病院についても、ご家族やご本人の希望により継続 している。	
			(外部評価) 協力医は、月～土曜日まで毎日、6名の利用者一人ひと り順番に往診してくださっている。利用者は、先生の 姿をみることで安心をされるようで、体のことで気にな ることがあれば、ご自分が直接先生に聞いてみられ ることもある。いつでも連絡が取れるようになってお り、3ヶ月に1回、血液検査を行っておられる。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 朝の申し送り時に管理者に報告、主治医に伝え、往診 時に適切な処置が出来るようにしている。緊急を要す る場合には24時間体制で管理者を通じて主治医に連 絡。対応していただく。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 各専門の医療機関をご家族と相談の上決めており、安 心して治療が出来るようにしている。入退院時には相 談員や医療連携相談室と連携を取りながら情報交換・ 共有に努めている。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 24時間の医療が必要になった場合には、ご家族と主治 医との話し合いを持ち、主治医の連携病院とともに支 援していくようになっている。この件に関しては常に 管理者がご家族と話し合い、説明・ご理解いただける ように努めている。	
			(外部評価) 年1回、ご家族に終末期に関するアンケートを取る等し て、終末期のあり方についての意向を確認されてい る。利用者が食べ物を口から食べられなくなった場合 を想定した勉強会等も行っておられるが、管理者や職 員には、まだまだ不安や心配な点もあるようだ。 事業所の看とりの指針等も用いながら、利用者ご本人 の意向やご家族の協力、事業所の体制や医療機関との 連携体制、職員の勉強等、さらに具体的に体制を整え ていかれてほしい。又、他事業所の取り組みや事例を 聞くような機会を作ったり、ご家族も一緒に勉強する 機会を作る等、職員の不安や心配の軽減にも取り組 んでいかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを作成し、確認・訓練を行っているが、すべての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。救急車を呼ぶ訓練は身につけている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月最低1回は避難訓練をしている。今年度は防災に関して運営推進会議で3回研修及び実地訓練を行い、避難方法及び地域の協力体制を得る事が出来た。	
			(外部評価) 運営推進会議時、地域の方と一緒に避難経路を実際に歩き「防災マップ」を作成された。倒れそうなブロック塀、行き止まりになっている箇所、みぞ等「普段散歩していても気付かない危険な所」を確認することもできたようだ。又、利用者の方も一緒に歩き、避難に要する時間を計ってみられた。地域の方達にも車いすを押ししたり乗ったりしていただき「車椅子を押しみたら操作が難しかった」「乗っているのもしんどいものだ」等の声が聞かれた。又、参加者から提案いただいた「利用者の名前と顔が一致するネームプレート」も作成されていた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 育った環境や、生活歴、職業歴などを念頭に置き、お一人お一人に合った言葉かけ・対応を心掛けている。	
			(外部評価) 事業所内では、できる限り車いすを使わず、職員が手を引いたり、ご本人が柱や椅子、手すりを持って移動できるように支援されている。「靴がなくなるといけない」と居室に靴をしまう方もあるが「ご本人の安心」を大切に見守っておられる。調査訪問時の昼食後、職員は利用者「お天気もいいし、今日は、お昼から何をしましょうか」と相談されて、散歩に行くことを決められたようで、出かけていく様子がかがえた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 御本人がどうしたいのかをまず聞いて、自分で決めて実行できるように言葉や行動で働きかけをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常生活の中では、マニュアルではなくその時々が大切であることを常に心に置き、本人の希望がくみ取れる支援を心掛けている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣介助時には本人と一緒に洋服を選び、その方の好みで季節に合った服装が出来るように支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る方に出来ることをしていただき、味付けや調理方法などを話したり、教えてもらったりする場面も見られる。配膳や後かた付けも利用者が行っている。	
			(外部評価) 管理者は「あまり食欲がない日もあれば、食欲のある日もある」という考えのもと、ご自分の分は、ご自分で食べたい量、食べれそうな量のご飯をよそってもらうようにされていた。調査訪問時も、利用者個々が好きな量のご飯とカレーをよそい、ご自分でテーブルまで運んでおられる様子がうかがえた。昼食の食事量が少なかった方には、おやつを多くされたり、おやつが遅くなった日は、夕食の時間を少し遅らせる等して、食事時間等もその日の状態や様子に合わせておられる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) お粥食、ミキサー食、とろみ食と個別に対応している。また栄養面に関しては、定期血液検査により貧血など状態把握したうえで、好みの食材から摂取できるよう努めている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後にはうがいをしていただき、入れ歯の方は洗浄する。歯磨きのできる方は職員と一緒に歯磨きをし、寝る前には入れ歯を預かり洗浄液につけて朝渡すようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	おむつや紙パンツは極力使用しない方向で統一している。体調不良などで使用した後も、なるべく早い時期に自立やそれに近い状態に戻るよう、支援している。	
			(外部評価)	排泄時の声掛けは、利用者の方が動かれた時にさりげなく行うようにされている。時々失禁する利用者にも、先々に声を掛けすぎないように心がけておられる。職員は、利用者がトイレから出た後、トイレの中を確認されたり、ご本人に聞いてみる等して支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	排便記録を毎日チェックし、食物繊維の多い食材にしたり、水分摂取を促している。またできる体操や腹部マッサージを取り入れたりしている。	
			(外部評価)		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	入浴は拒否される方が多いため、タイミングは非常に大切にしている。希望される方は最優先し、個々の状態に合わせて入浴やシャワー対応をしている。	
			(外部評価)	入浴を嫌がられる利用者の方が多いようだが、痒がる等、不快な時等にお風呂に誘ったり、「薬を塗る」時をきっかけに、入浴をすすめる等「タイミング」を活かして支援されている。事業所の浴槽は深さがあり、怖がる方もあるようだが、滑り止めマットを敷き、浴槽台を湯船に沈め、台に座って温まれるように配慮されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	自由に自室で休まれているときは邪魔をしないようにし、休息の必要な方は時間を見ながら誘導している。夜間は室内温度に十分注意して、安眠できるよう支援している。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 現在服薬している薬に関しては理解周知しており、薬情報は常に目を通せる場所にある。薬が変わった時には申し送りでも全職員に徹底し、症状の変化について日々の状態を確認している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 買い物、散歩、ドライブなど、その方が好きで気分転換できる事を行い、食事時の手伝いや、洗濯物干し、掃除などはできる方が役割を担って、日々行っている。将棋と油絵が趣味の方がおられ、職員と将棋を指したり作品を玄関に飾って楽しまれている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的にはスーパーに買い物に出かけたり、ドライブで海を見に行ったりカラオケボックスにも出かけたりしている。ボランティアさんと一緒に松山まつりに出かけたほかは、お孫さんの中学校のバザーに出かけ、やきそばを買ってかえられた。 (外部評価) ほぼ毎日、近くの公園に散歩に出かけておられる。利用者によっては、車椅子を押ししたり乗ったりしながら散歩される方もある。近所の畑のひまわりの花を見に行かれたり、食材等の買い出しには、利用者が順番で行くようにされている。毎月、少し遠くまでドライブに出かけておられ、道の駅やそうめん流し、花見等、計画を立てて外出しておられる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ホーム内で金銭の所持をされている方はいないが、職員と買い物に行った時には見守りの中で買い物をしていただき、楽しんでもらえるよう努めている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望のときにはかけて差し上げ、家族からかかって来た時にはご本人と変わりお話をされている。手紙のやり取りは現在出来る方がいないが、職員あてに来た場合は御本人にも見ていただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>民家改築型なので、談話室を含め全室から庭が見え緑が多い。陽が入る時間帯には談話室で過ごしていただき、お部屋の温度には十分気をつけて、換気にも注意し快適に過ごせるよう気をつけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間には、ラジカセを置いて、懐メロの曲を流しておられた。口ずさまれたり、利用者同士の会話のきっかけになっている。衣服や室温等、又、ご本人の言葉等を合わせて、職員が室温の調節をされている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>談話室には4か所の座り場所があり、それぞれ気のある方と会話したり、歌を歌ったり、テレビを見たり、寝転がったりされている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族の写真が飾られていたり、ぬいぐるみや本人の思い出の品物が飾られてある。置く場所に関しては、危険のないように配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご自分やご主人の若い頃の写真や、誕生日の写真が飾られている。かわいいものが好きな方の部屋には、ご家族がぬいぐるみを持って来られ飾られていた。ダンボールに衣類を入れていることで落ち着かれる方もあり、ご本人の意思を大切にされていた。又、タンスにはシールを貼って上着・下着が分かるようにされており、洗濯物をたたみ、職員と一緒に片付けるようにされている。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>出来る事は見守りの中で手伝ってもらったり、お願いしたりしている。自室のドアにはお名前が張っており、トイレも表示しており、場所が分かるようにしている。</p>	